

### 令和3年度 学校経営計画及び学校評価

#### 1 めざす学校像

「衣を正し、時を守り、場を清める、そして自分を磨く」の教育方針のもと、社会で通用する規範意識を醸成する。また、もう一つのキーワード「脳力開花」を掲げ、激動の社会で力強く生き抜き、生涯を通じて学び続ける力を高めようとする姿勢を育む。

- 1 基礎学力を確立したうえで、希望する進路先において論理的かつ科学的な発想ができるように、思考力、判断力、表現力を育成する。
- 2 特別活動や課外活動の活性化に力を注ぎ、自発的な行動力、創造的な企画運営力等を伸ばし、将来社会生活で活かすことができる資質を育成する。
- 3 挨拶励行・時間を大切にす・整理整頓実行・清潔な着衣など、社会人として通用する基本的な規範意識を定着させる。
- 4 寄り添いの姿勢とカウンセリングマインドを備えた指導を重視し、生徒や保護者から信頼され、安心して学ぶことができる学校となる。
- 5 全ての生徒が他者理解や思いやりの心を持つとともに、自らを大切にし、夢や希望を持って新しい社会を切り開く態度を育成する。

#### 2 中期的目標

**1 社会で通用する基礎学力の定着と希望する進路実現**

(1) 基礎学力の充実と授業形態の改善

ア 1年時の国数英授業において、生徒の理解度や希望する進路に応じて少人数習熟度別授業を展開し、基礎学力を充実させる。  
生徒向け学校教育自己診断アンケートの授業満足度を毎年引き上げ、令和5年度には75%を達成する。(H30:70%, R1:66%, R2:68%)

イ 普通教室(18教室)に電子黒板機能付きプロジェクターを設置した。今年度配備予定の生徒1人1台の端末と効果的に組み合わせることにより授業のICT化を進め、生徒たちが互いに協力して学び、その成果をアウトプットできるような授業形態の導入を進める。  
教育産業の実力診断テスト GTZ 値(国数英)を令和5年度までに2ポイント向上させる。(H30:D1+, R1:D1-, R2:C3+)

(2) 希望する進路の実現

ア 大学・短大進学希望者の増加を踏まえ、進路ガイダンス機能を充実させる。  
令和5年度までに大学・短大進学率40%を達成する。(H30:26%, R1:34%, R2:28%)

イ 一人ひとりの生徒が希望する進路を実現する。

ウ 将来に夢や志を持てるよう、自らの職業観・労働観の形成を重視したキャリア教育を行い、卒業時進路未定者を減少させる。

(3) 新カリキュラムへの移行

ア 主体的対話的で深い学びを促し、生徒たちにとってよりわかりやすい授業形態の構築に向け、教職員研修や授業見学週間等を行い、授業力の向上を図る。  
更に「観点別評価」のPTを更に活性化させ、令和3年度試行、令和4年度の導入に向けて学校全体で更に理解を深める。

**2 多様で変化が激しい社会で生き抜く力の育成**

(1) 服装・遅刻指導や美化活動等の適切な生活指導や教育相談を通して、社会人として通用する基本的な規範意識を定着させる。

ア 学校目標である「時を守り」の徹底を図り、遅刻指導体制を充実させ遅刻数を大幅に減らす。

イ 課題を抱える生徒についてSC・SSWと緊密に連携し、生徒情報交換、ケース会議等を実施し、支援委員会を中心に指導方針を明示する。  
遅刻数(大小合わせて)を令和5年度までに4500以下にする。(H30:4982回, R1:5608回, R2:5035回)  
皆勤者数を令和5年度までに170人を維持する。(H30:204人, R1:131人, R2:175人)  
学校教育自己診断アンケート(生徒)の「悩み事の相談に乗ってくれる」の肯定的回答を令和5年度までに70%を達成する。(H30:58%, R1:54%, R2:63%)

(2) 特別活動等の活性化

ア 生徒会行事、学年行事、部活動を活性化し学校への帰属意識を高め、明るく元気な学校生活を送ることができるよう支援する。  
令和5年度までに部活動加入率50%を達成する。(H30:42%, R1:40%, R2:45%)  
学校教育自己診断アンケート(生徒)の「学校行事が楽しい」の肯定的回答80%を達成する。(H30:77%, R1:71%, R2:77%)

イ 学年行事や、部活動、各種検定等の優秀者に対し、式典等の際に「守口東賞」(タオル)を贈り、特別活動や検定試験への参加を促す。

(3) 防災体制の見直し

ア 災害発生時に迅速かつ安全に対応できるよう、市や近隣施設とも連携した訓練を実施し、万全の防災体制を構築する。

**3 地域に愛される魅力ある学校づくり**

(1) 情報発信と外部組織との連携

ア 異なる校種間交流や地域コミュニティとの連携等の機会を設定し、「協働」の意識を醸成する。

イ 教育アプリ、ホームページ、メールマガジン、校内ディスプレイ、正門横電光掲示板等を充実させ、学校内の教育活動を内外に発信し、生徒・保護者・地域からの信頼・協力の獲得に努め、中学生が「行きたい学校」となる。  
学校教育自己診断アンケート(保護者)の「HPやメールマガジンで学校の様子がよくわかる」の肯定的回答75%を達成する。(H30:67%, R1:68%, R2:71%)

(2) 国際交流の推進

ア 海外研修や授業等を通して多様性を理解するとともに、自身のキャリアデザインを考え、グローバルに活躍できる人材を育成する。  
令和3年度から国際交流委員会を立ち上げ、令和4年度には希望者に対し韓国への語学研修を実施する。

**4 機能的な校内体制の整備と働き方改革の推進**

(1) 校務の効率化

ア 電子メール・連絡掲示板・レターケース等の活用により校務を効率化させ、情報共有の機会を更に増やし、会議時間の短縮を図る。  
学校教育自己診断アンケート(教職員)の「職員会議等の回数や時間は適切に行われている」の肯定的回答向上をめざす。(R2:70%)

(2) 職場環境の改善

ア 安全衛生委員会を更に活性化し、教職員間の意思疎通を円滑にすることで、縦・横の風通しの良い職場環境の実現をめざし、職場におけるハラスメントの撲滅を図る。  
ストレスチェックの分析結果における「職場の健康リスク」値を80(最良)に近づける。(H30:103, R1:97, R2:90)

#### 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [ 令和 年 月実施分 ]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	A 今年度の重点目標	B 具体的な取組計画・内容	C 評価指標[R2年度値]	D 自己評価
1 社会で通用する基礎学力の定着と希望する進路実現	<p>(1) 基礎学力の充実と授業形態の改善 ア 習熟度別少人数展開授業の実施 イ 授業のICT化推進</p> <p>(2) 進路実現 ア 大学・短大進学に向けて進路ガイダンス機能の充実 イ 希望する進路の実現 ウ キャリア教育</p> <p>(3) 新カリキュラムへの移行 ア 新カリキュラムの導入と観点別評価の理解</p>	<p>(1) ア 1年国語・英語は1クラス2展開、1年数学2クラス3展開授業を行う。 イ 「授業見学週間」に全教科でICTを活用した授業を実施する。</p> <p>(2) ア 進学講習を継続的に行い、大学・短大受験への意識を高める。 イ ・英語、漢字、情報等各種検定の受検を呼びかけチャレンジ精神を養い、将来の進路に生かす。 ・進路の実現のために、前向きな姿勢で全教員が全力で生徒をサポートする。 ウ ・進路ガイダンスを実施し、様々な進路について早い段階から考えさせる機会を設ける。</p> <p>(3) ア ・首席を中心に「授業見学週間」「授業改善研修」を実施し、学校全体で授業改善に取り組む。 ・観点別評価PTにから各教科に評価方法を検討し、研修において情報を共有する。</p>	<p>(1) ア 少人数授業アンケートの肯定的回答を全科目で維持 [国：89%,数：91%,英：91%] イ ICTを使った授業実施のアンケート肯定的回答70%以上[64%]</p> <p>(2) ア ・大学・短大進学者32%の達成[28%] イ ・3検定の受験者数を10%増やす。 [英検:18、漢検:59、情検:113]</p> <p>(3) ア ・自己診断「授業力改善」の肯定的回答75%[73%] ・一学期末までに各教科で検討し、年度末までに試行実施する。</p>	
2 多様な変化が激しい社会で生き抜く力の育成	<p>(1) 規範意識の定着 ア 遅刻指導体制の充実 イ 課題を抱える生徒対応をSC等と連携</p> <p>(2) 特別活動等の活性化 ア 各種行事や部活動の活性化 イ 「守口東賞」の贈呈により、特別活動参加促進</p> <p>(3) 防災体制の見直し</p>	<p>(1) ア 登校時に生活指導部や担任が門に立ち、服装指導や遅刻指導を行い、遅刻者数を減らす。 イ 支援委員会を中心に、SC・SSWを活用し、寄り添う姿勢を大切にする。</p> <p>(2) ア 顧問体制の充実と、新入生への部活動紹介・体験を充実させ、加入率を向上させる。 イ 終業式・始業式の際、校長から賞状と守口東賞を贈呈する。</p> <p>(3) 守口市危機管理室と連携し、災害マニュアルを再点検し、教職員で対応を周知する。</p>	<p>(1) ア ・年間(大小)遅刻者数4750以下を達成[5035] ・皆勤賞150人を維持[175人] イ ・自己診断(生徒)「悩み事を相談できる」の肯定的回答68%[63%]</p> <p>(2) ア 部活動加入率48%の達成[45%] イ 部活動表彰や検定合格者を毎回10人以上贈呈する。</p> <p>(3) 教職員でマニュアルの読み合わせを実施。[0回]</p>	
3 地域に愛される魅力ある学校づくり	<p>(1) 情報発信と外部組織との連携 ア 校種間交流や地域コミュニティとの連携 イ 情報の発信と、中学生が「行きたい学校」となる。</p> <p>(2) 国際交流の推進 ア 韓国との語学交流を進める。</p>	<p>(1) ア ・地元中学校との授業見学等の連携や支援学校との交流を進める。 ・大学からの出前授業やこども園との連携を更に進める。 イ ・ホームページの学校行事や部活動の更新頻度を上げ、1日のアクセス数を向上させる。 ・玄関横電光掲示板の有効活用を図る。</p> <p>(2) ア 国際交流委員会を中心に企画を進める。特別非常勤講師にも協力を求め、R4年度からの実施をめざして「韓国・朝鮮語」の授業選択者に希望を募る形で進める。</p>	<p>(1) ア ・地元中学校へへの出前授業3校実施[0校] ・支援学校との交流1回[0回] ・大学出前授業参加者数を増やす。[79人] イ ・アクセス数1日平均100件を達成する。[80件] ・自己診断(保護者)「HPやメルマガで学校の様子がわかる」の肯定的回答75%達成[71%]</p> <p>(2) ア 二学期末までにWEB交流を行い、年度末まで語学交流の概要を決定する。</p>	
4 整備と働き方改革の推進	<p>(1) 校務の効率化 ア 会議時間の短縮</p> <p>(2) 職場環境の改善 ア 風通しの良い職場環境の実現</p>	<p>(1) ア 運営委員会を2時間連続で確保し、職員会議での議事を精選し、時間短縮を図る。「教職員の皆さんへ」を年間24号発行し、通知等を周知する。</p> <p>(2) ア 安全衛生委員会の更なる活性化を図り、各種ハラスメントの相談窓口であることを周知し、教職員からの要望を吸い上げ、改善を図る。</p>	<p>(1) ア ・自己診断(教員)の「職員会議の回数や時間が適切」の肯定的回答75%を達成。[70%]</p> <p>(2) ア ストレスチェック「職場の健康リスク」値を88ポイントに向上させる。[90ポイント]</p>	